

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2672100027
法人名	社会福祉法人 北星会
事業所名	グループホーム天橋の家
所在地	京都府宮津市字惣421-1 (電話) 0772-20-3029

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年4月11日
評価確定日	平成20年4月23日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 31 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.35 人	

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り
	2 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮津武田病院、小西歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

30年以上地域に根ざした福祉を幅広く展開している北星会が運営するグループホームで地域密着型特養、認知症対応型デイサービスと併設されています。ホーム内は大変広くて、明るく、ゆったりと寛げる空間作りがなされています。職員はホーム独自の方針である「第二の我が家」を目指し、利用者、家族とのつながりも大切に考えながら、日々話し合い、また、利用者一人ひとりの希望に添えるように一丸となりケアに取り組まれています。外出にも力を入れており、利用者は併設の特養等の行事やクラブに参加したり、買物や近所の喫茶店に行ったり、ホテルでの新年会の開催等、外に出る機会が多く、ホーム内でも思い思いに楽しみながら過ごされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題であった、玄関の鍵についてはチャイムをつける事で鍵を掛けないケアの実践に取り組まれており、また、ケアプランに添ったカンファレンスを毎月定期的に行う事等、出来る事から改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、全職員で取り組まれており、数回に分けてそれぞれの意見を出し、話し合いながら作成され、項目の理解、ケアの振り返りを通じてサービスの質の確保がされています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、家族、地域の自治会長、民生児童委員協議会の方、介護相談員、地域包括の方が参加する運営推進会議が開催されています。会議ではホームの活動を中心に報告され、地域の情報をもらったり、防災について等話し合われています。参加者は大変理解があり、積極的で、良い会議になるよう、他ホームの会議を見学に行く予定もあります。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームになるべく来てもらえるように取り組まれており、来られた際に情報交換をしながら意見や希望を聞いています。年に2回家族が集まるイベントや食事会なども開催されています。また、玄関には苦情箱を設置し、書類には苦情窓口を明確にしています。得られた意見等については職員間で共有し、話し合われています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	近所の保育所へ運動会を親に行ったり、お花見に行ったり、その際に利用者が縫った雑巾をプレゼントしています。幼稚園児の訪問もあり、法人全体で地域との交流に努めています。また、近所の喫茶店やスーパーを利用したり、老人会のグランドゴルフを見学したり、今後は清掃活動などにも積極的に出向いての参加を考えられています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念、三つの誓いを基にグループホーム開設にあたり職員で話し合い、家庭的な雰囲気を大切に、ぬくもりと安らぎのある第二の我が家を目指し、入居後も家族との交流を大切にする事を謳った独自の方針が掲げられている。地域密着として活動されているが明文化されていない。	○	地域密着型サービスのホームとして、住み慣れた地域で暮していくことや、役割について職員で話し合い、理念に盛り込まれる事が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は利用者「第二の我が家」と思ってもらうためにはどうすれば良いかを常に考えながら、日々の申し送りや毎月の会議、カンファレンス等で話し合いながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の保育所へ運動会を観に行ったり、お花見に行ったり、その際に利用者が縫った雑巾をプレゼンしている。幼稚園児の訪問もあり、法人全体で地域との交流に努めている。また、近所の喫茶店やスーパーを利用したり、老人会のグランドゴルフを見学したり、今後は缶拾いなどにも積極的に出向いての参加を考えている。現状以上に、地域への積極的な関与を取組もうとしている。	○	ホーム便りを活用し、グループホームを地域に知ってもらう取り組みを考えているので、回覧板等を利用しホームを知ってもらう働きかけが今後も期待される。また、地域からの協力を求めるだけでなく、地域に対しても提供すること(地域清掃や子供の見守りなど)にも積極的に関与されることが期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価について、ひとつひとつ職員で話し合い改善に向けて取り組まれている。今回の自己評価については、全職員で取り組まれており、数回に分けてそれぞれの意見を出し合い話し合いながら作成され、項目の理解、ケアの振り返りを通じてサービスの質の確保をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族、地元の自治会長、民生児童委員協議会の方、介護相談員、地域包括の方が参加する運営推進会議が開催されている。会議ではホームの活動を中心に報告され、地域の情報ももらったり、防災について話し合われている。参加者は大変理解があり、積極的で、良い会議になるよう他ホームの会議を見学に行く予定もある。今後、ホームとしてできることの提案が求められる。	○	運営推進会議を活かしていこうと、試行錯誤しておられるが、単なる情報交換の場として、地域資源の提供を待つだけでなく、ホームで出来ることを地域にも発信し、地域交流の場の一つとしての工夫が期待されます。

グループホーム天橋の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人として連携をとっており、管理者は市担当者と相談したり、事業所へ来てもらったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月行事予定や日々の暮らしぶりや行事の際の写真を掲載した便りを家族に手渡しており、家族がホームに来られた際には様子をお話しながら情報交換をしている。金銭管理は定期的に報告し、サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームになるべく来てもらえるよう取り組まれており、来られた際に情報交換をしながら意見や希望を聞いている。また、年に2回家族が集まるイベントや食事会なども開催されている。得られた意見等は連絡ノートで共有し、話し合われている。また、玄関には苦情箱を設置し、書類には苦情窓口を明確にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係でのケアを重視しており、異動等については最小限にしている。主任との定期的な面談を行っている。新しい職員が配置される場合は馴染みの職員が間に入り関係をつなぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、職員に受けたい研修等について提出してもらい、それに基づき、法人内研修や外部研修になるべく参加するようにしており、受講後は報告書を作成し、レジュメとあわせて回覧され、会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府グループホーム連絡会に参加し、研修や交流会を通して情報交換しながらサービスの質の向上に努めている。他ホームを見学する研修にも参加し、様々な気づきにもつながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前はなるべく見学に来てもらっており、見学が困難な状況の場合はホームから居宅に向いてその方が早く馴染めるように対応している。入居後は家族とのつながりを大切にし、相談や協力をしながら安心して生活してもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に梅干作りや切干大根、畑での野菜作りなど得意な事を教えてもらったり、一緒に過ごしながら日々支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日常の会話や家族から生活歴を聞いて把握し、センター方式を作成して職員間で共有し、カンファレンスで話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人との日常会話、家族との情報交換から希望や意向を聞き、職員間ではカンファレンスで話し合ったり、個別に意見を聞いたりしながら一人ひとりに添ったケアプランが作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスにて話し合われ、現状に合ったケアがなされているが書面としての介護計画の見直しが充分に出来ていない。	○	介護計画は長期目標、短期目標の期間を明確にし、期間毎の見直し、また、期間にとらわれず、本人、家族の要望や変化に応じて随時見直され、計画と現状とのケアとズレが無いよう対応する事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別ケアに力を入れており、利用者の状況に応じて、これまでの趣味の継続の外出や買物など対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続してもらっている。往診に来て頂いたり、病院に付き添ったり、直接医師に電話するなど家族の協力を得ながら支援している。また、併設の特養の看護師にも相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際は家族、職員で話し合いながらその方にとって最善の方法を決めている。入居時にホームの現状を説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に「自分だったらどうか」を考えながら接しており、会議等でも対応について話し合いをしている。特に排泄時の声掛けには十分に配慮している。個人記録については事務所内の鍵の掛かる場所で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、起床時間や、就寝時間も自由であり、一人ひとりのペースを尊重し、出来るだけ意向に合わせて支援している。		

グループホーム天橋の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、買物、調理、配膳、後片付け等、積極的に参加されている。職員は利用者と同じ食事を一緒に食べている。また、月1回外食にも行き、楽しみの一つとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、夕食前や夕食後の入浴など支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を活かして、調理や掃除、畑での野菜作り、ピアノを弾いてもらったり、カラオケ等歌を歌ったり、編み物や裁縫など支援している。また、併設の特養の行事に出掛けたり、今まで通っていたデイサービスに遊びに行ったり、ホームでぬり絵やパズルなど楽しみ事や力を活かした支援もしている。。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出に力を入れており、出来るだけ散歩やドライブ、買物に出掛け、併設の特養や畑に出たり、中庭でお茶をしたり、近所の喫茶店に行っている。個別や少人数の外出、季節毎の遠足等にも出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関にチャイムを設置し、職員は見守りを徹底して、鍵を掛けないケアを実践している。また、外出の際は一緒に付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署立会いのもと、特養等合同で避難訓練を行っている。そのうち1回は夜間を想定しての訓練も実施している。ホーム横にある寮の方には協力をお願いをしている。また、地域の独居の方の避難場所となる役割も担い、市と話をしている。		

グループホーム天橋の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士が配置されており、バランスのとれた食事が提供されている。食事、水分摂取量は毎回記録し、把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは大変広く、床の間のある和室コーナーにはこたつが置かれ、季節の花や飾りを工夫し、たくさんある窓にはカーテンの他、すだれが掛けられている。台所もオープンキッチンで利用者にとっても使いやすく、ご飯の炊ける匂いや音を聞きながらゆったりと過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族に馴染みの物を持って来てもらうに説明している。利用者は応接セットや馴染みの椅子、テレビ、布団などが持ち込まれている。		